

# 科研費研究「シーボルトがみた瀬戸内沿海域の景観が持つ固有価値の再評価」 現地調査実施中(速報)

8月20日から26日にかけて、標記現地調査が行われています。

この研究は、神戸芸術工科大学の齊木崇人教授、東海大学の東恵子教授ほかによる共同研究で、ケンペル、シーボルト、リヒトホーフエン、宮本常一らが巡った海路を辿りながら、彼らが評価し記録した瀬戸内沿海文化の現状の把握を目的としています。その現地調査として、8月20日に神戸港メリケン波止場を出発、19トンの船を貸し切って瀬戸内海の島々を辿り、8月26日に下関解散というスケジュールで現在調査中です。

現地調査にあたりましては、瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会会員自治体の方に都市計画や景観に関する条例等の情報提供、及びパンフレット等の提供でご協力頂き、大変ありがとうございました。

この研究は、瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会の活動指針の一つである「瀬戸内海の景観、歴史、文化、食、街並み等インバウンド観光時代における瀬戸内の魅力発信」に沿ったものであることから、この研究を参考に瀬戸内海の魅力を再認識して、今後の瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会の活動につなげていければと考えています。



瀬戸内海を航行中の船内の様子



調査の様子(淡路市室津港周辺)



当時の面影を残す建物(たつの市室津)



シーボルト達も見たであろう夕焼け